



①



②



③



④

ふるさとを

「知り・伝え・創る」総合探究

- ①地域を歩き、魅力を発見（5年）
児童が調査場所を選び、企業・寺社・商店などへ自ら取材。得た魅力や歴史を76枚のポスターにまとめ、地域へ発信した。
- ②150年の歴史を学び、伝える（6年：歴史チーム）
学校150年の歴史を調査し、児童がスライド・台本を制作。記念式典で地域に向けてプレゼンし、学校への誇りを深めた。
- ③地域の課題を考え、未来を提案（課題・PRチーム）
高齢化や地域活性などの課題を調べ、解決案を話し合い提案。CM制作やプレゼン大会応募を通して地域への発信を行った。
- ④ひがびよん誕生！150周年を盛り上げる活動
児童の総選挙から生まれた学校公式キャラを自分たちでデザイン。Tシャツ等のグッズ制作・販売で学校と地域をつなげた。

学校名 鯖江市鯖江東小学校
1. テーマとアピールポイント
<p>テーマ ふるさとの魅力再発見プロジェクト～ふるさとを「知り・伝え・創る」総合探究～</p> <p>アピールポイント 2年間にわたり、自ら地域を歩き、魅力を調べ、課題を見つけ、未来への提案を行う探究的な学びを継続してきた。今年度は創立150周年という節目の年と重なり、ふるさとの歴史や地域の魅力をより深く学び、学校全体・地域全体を巻き込んだ活動へと発展した。</p>
2. 活動内容
<p>(1) 対象学年、児童生徒数 6年生64名(※昨年度5年時から活動を継続)</p> <p>(2) 取組内容</p> <p>① 児童の発意・発案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトの出発点は、児童自身の「ふるさとを自分たちの力で調べたい」「地域の良さをもっと知り、地域の人たちに伝えたい」という強い思いから始まった。5年生時には、児童が自ら調査したい場所を多数提案し、その理由や期待する学びについて班ごとに話し合い、訪問する施設・企業・寺社などを決定した。 ・インタビュー内容についても、児童が「地域の方に失礼のない聞き方」「その場所の魅力を最大限引き出す質問」などを主体的に考案した。質問項目は5回以上の話し合いを経てブラッシュアップされ、訪問当日は児童がリーダーを決めて取材・メモ・撮影をすべて担当した。 ・6年生では、150周年を迎える学校の節目に「自分たちが主役となって記念を盛り上げたい」という声が上がリ、活動のテーマや進め方も児童会を中心に自分たちで決定。歴史調査チーム・地域PRCMチーム・地域課題プレゼンチームの3つに分け、どのチームも進行スケジュールや役割を子どもたちが決め、互いに進捗を共有しながら主体的に活動した。 ・学校公式キャラクター「ひがびょん」の制作では、児童がアンケートの質問内容を考え、全校生に配布。集計、総選挙の準備、投票ポスターの掲示、候補デザインの改善など、すべてを自分たちの力で進めた。プロのイラストレーターとのやり取りも行い、採用デザインの細部(耳の角度、色使い、表情など)について具体的に希望を伝えた。 ・グッズ制作では、Canvaを使いこなし、自らTシャツ・タオル・キーホルダーなど複数のレイアウト案を作成。「買う人の視点」「男女ともに使いやすいデザインの選定」「150周年らしさの表現」といったマーケティングの視点も自然と育ち、企画力の高さが顕著に表れた。 ・150周年記念式典で歌う合唱の演出や隊形、Tシャツの配置・見せ方まで児童がアイデアを出し合い、学校全体の雰囲気を作り上げた。大人主導ではなく、児童が中心となって記念事業をつくりあげた点が最大の特徴である。 <p>② 地域との関わり(調査・課題・協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生時の地域調査では、新横江地区を中心に飲食店・企業・工場・商店・神社・寺院・公民館など20カ所以上の場所を訪問。児童は事前に地域地図を見ながら「なぜここを調べたいのか」「この場所のどんな魅力を知りたいのか」を班ごとに整理し、目的意識を明確にもって調査に臨んだ。 ・調査では、地域で働く方々が語る仕事の工夫、伝統を守る苦勞、地域の活動が続いてきた理由など、教科書だけでは知ることのできない「生きた地域の歴史・魅力」に触れた。特に「地域のつながりの希薄化」「人口減少」「担い手の不足」などの課題を知り、自分たちにもできることを考えるきっかけとなった。 ・6年生では、元公民館長による特別授業で、新横江地区・鯖江市の歴史、地域の成り立ち、伝統行事の意味などを学び、地域を深く理解する視点が育った。児童は授業後、「昔の人たちがつくってきた地域を、これからのぼくらが守り受け継いでいきたい」という感想を述べるなど、地域への誇りを実感していた。 ・地域PRCMチームは、地域を魅力的に伝えるために、街角、施設、寺社、商店街などを撮影し、どんな構成や工夫なら魅力が伝わるかを話し合っ てCM制作に取り組んだ。 ・地域課題プレゼンチームは、課題を新横江地区中心の「グルメフェス」「ペットとの共生」「学生主体の地域イベント」などテーマ別に整理。地域の方へのヒアリングも行いながら、実現可能な提案をまとめ、県のプレゼン大会応募作品として仕上げた。 ・150周年記念式典では、地域の方々と協働して準備を進め、歴史プレゼンや合唱を通して地域に学びを還元した。式典後には、地域の方から「子どもたちの発表に感動した」「地域の未来を任せられる」といった声を多くいただいた。

③ 発信（プレゼン・式典・グッズ販売）

- ・5年生で制作したポスター76枚は、校内だけでなく地域行事や自治会館にも掲示し、多くの住民から「子どもたちの視点で地域を見つめ直せた」という感想が寄せられた。
- ・6年生で制作した歴史プレゼンは、約半年間調査した情報を、児童が分かりやすいスライド・ナレーションにまとめた本格的な作品となった。150周年記念式典では、多くの地域の方々が見守る中、堂々と発表し、「子供がここまでやるのか」と驚かれるほど高い完成度だった。
- ・地域PRのCMづくりでは、児童が撮影・編集・構成をすべて担当。「地域の魅力を30秒で伝えることの難しさ」「映像には伝える力がある」など高度な学びを得た。制作した作品は、県の「ふるさと福井CMコンテスト」に応募した。
- ・「明日をひらく！プレゼンコンテスト」では、地域課題チームの児童が、調査結果をまとめ、自分たちで台本を書き、視覚的に伝わるスライドを作成。発表練習を重ね、説得力のある提案として応募した。
- ・「ひがぴょん」グッズでは、Tシャツ、タオル、ナップサック、巾着、キーホルダー、アクリル定規など、多数のアイテムを制作。児童が企画・デザインした商品は地域でも人気を呼び、150周年式典の事前注文も当日注文も大反響であった。また、取材も行われた。

④ 新たな視点・挑戦

- ・本プロジェクトでは、「ネット調査→実地調査→取材→発信→地域への還元」という一連の探究的プロセスを、児童が主体となって経験した。特に「実際に歩く」「実際に聞く」「自分でまとめる」「地域へ向けて発信する」というサイクルは、今年度ならではの深まりがあった。
- ・ICT活用では、ロイロノートで調査内容を整理、Canvaでデザイン制作、動画編集アプリでCM編集など、児童が“デジタルを使いこなす学習者”へと成長した。
- ・150周年という特別な年を契機に、学校の歴史、地域の現在、そして未来の姿を「自分たちの視点でつなぎ直す」という創造的な挑戦ができた点は、今年度ならではの大きな価値である。
- ・ゆるキャラ制作～グッズ販売までの流れは、単なる児童会活動ではなく、「企画→デザイン→選挙→発注→販売→振り返り」という実際の社会の仕組みを学ぶ実社会型学習となった。
- ・児童は活動を通して、「地域のために自分たちが動ける」「自分の思いを形にできる」という自己効力感を強く獲得し、次年度以降も続く鯖江東小の新たな伝統となりうる取組となった。

3. 年間活動実績（12月以降の予定を含む）

■【5年生（昨年度）】

- ・11～12月
新横江地区の魅力調査を開始。調査場所の選定・インタビュー内容を児童が決定。企業・工場・店舗・寺社・公民館などへ取材訪問。地域の方の思いに直接触れる。
- ・1～3月
学習成果をポスター76枚にまとめ、校内や地域へ掲示。学びの共有を実施。

■【6年生（今年度）】

- 4～5月
 - ・150周年を迎えるにあたり、学校の歴史について調査を開始。
 - ・特別講師（元公民館長）による授業で地域の歴史を学ぶ。
 - ・児童の発意で活動を「歴史」「PR」「地域課題」3チームに分けることを決定。
- 6～8月
 - ・歴史チーム：学校150年の年表づくり、資料調査、卒業生への聞き取り。
 - ・PRCMチーム：CMの企画・構成を児童が話し合い、地域の撮影ポイントを選定して撮影。
 - ・課題プレゼンチーム：地域の課題を整理し、「学生の力のイベント」「ペット共生」「グルメの地域イベント案」など未来提案を作成。
 - ・並行して、ゆるキャラ総選挙を実施し、学校全体で投票を行う。採用キャラクター「ひがぴょん」が誕生。
- 7～9月
 - ・Canvaを活用したグッズデザイン制作へ本格的に着手。
 - ・Tシャツ・タオル・ナップサック・キーホルダーなど複数の案を作成し、印刷業者とやり取りしながら調整。
 - ・在校生・地域向け注文書を作成し、販売計画を児童会で整理。
- 10月
 - ・鯖江東小学校150周年記念式典
 - ・歴史プレゼンを地域の方々に向けて発表
 - ・児童デザインのTシャツを着て「ふるさと」を合唱
 - ・完成したグッズを販売し、地域から多数の反響
 - ・地域の方との交流を通して、地域への誇りを実感
 - ・明日をひらく！プレゼンコンテストへの応募
- 11～12月
 - ・ふるさと福井CMコンテストへの応募
 - ・調査結果・提案内容のまとめ、記録映像の整理
 - ・150周年を振り返り、地域の未来に向けたメッセージを児童全員で交流